

7/5(火)⑤⑥ 2年生

TBS 特別ホームルーム

埼玉新聞に掲載されました。

「非常時に備え交流を」

全盲の青木さんら

都内でバリアフリー講演会

全盲の日本語教師でアジア視覚障害者教育協会会長、青木陽子さん(60)とさいたま市見沼区とTBSテレビアナウンサー、伊藤隆佑さん(38)県立松山高校卒が5日、東京都港区立高陵中学(平川恒美校長)で「ニュース報道で考える心のバリアフリー」をテーマに講演した。

(菊地正志)



講演する青木陽子さん(右)とTBSアナウンサーの伊藤隆佑さん
—東京都港区西麻布の高陵中学

青木さんは米国の大学院を修了後、中国・天津に渡り、視覚障害者と健常者が共に学べるバリアフリーの日本語学校を設立。これまでに500人を超える学生を無料で教え、障害者の自立支援や日中

友好に貢献している。講演ではまず、湾岸戦争(1991年1月)のニュースを紹介。当時青木さんは米国・フィラデルフィアにいた。「フセインは悪だ」という報道であふれ、米国の世論が一気に戦

争賛成へと変わっていったと振り返る。牧師を自指す白人学生の言葉が忘れられない。「どっせ死ぬのは黒人だから」。青木さんはショックで体が震えたという。「戦争は人

間の尊厳を損なう最悪の行為。思考を止めず、戦争が起こる原因について考えてほしい」

伊藤さんは東日本大震災発生時に災害報道に携わり、ボランティア活動にも参加。その体験を契機に防災士資格を取得した。

今年1月、トカラ地震の津波速報を担当した伊藤さんは「周囲の障害者や外国人、子どもやお年寄りに手助けを」とアナウンス。「防災士としての知識を生かしてコメントした。障害のある人にも、ない人にも役立つニュース報道を心がけている」

視覚障害者の青木さんは「災害時に障害者は手助けが必要。日頃から近所で暮らす障害者や1人暮らしのお年寄りに関心を持ち、つながり合い、交流してほしい」と要望。伊藤さんも「自分の周りに手助けが必要な方がいることを頭の片隅に置いてもらうだけで、災害時の行動が変わってくると思う」と生徒に語りかけた。